

神奈川県青少年科学体験活動 推進協議会 NEWS 第117号

平成30年4月20日発行
事務局：県立青少年センター
科学部 科学支援課
電話：045-263-4470

子ども科学探検隊等訪問先調整中

今年度も、当協議会主催事業である「子ども科学探検隊」(小学4～6年生対象)、「中高生サイエンスキャリアプログラム」(中高生対象)を計画しています。ただ今、事務局で最終的な日程調整等を行っているところです。子ども達が会員の皆様の施設を訪問し、見学や聴講、体験をさせていただく中で、科学への興味関心を高め、科学技術人材育成につながるよう、ご支援・ご協力をお願いします。

青少年センター隣接の掃部山公園の桜→
バックはランドマークタワー(3月29日 事務局撮影)



Science Topics 協議会事業の様子を中心にお届けしているこの「協議会ニュース」ですが、まだ調整中、開始前ですので、今回は桜に関する話題を二つお届けします。

Topic①【花びらが緑色！の桜】

紅葉ヶ丘にある青少年センターに隣接して掃部山(かもんやま)公園という桜の名所があります。ここは、明治時代に井伊家(1860年、桜田門外の変で暗殺された江戸幕府大老 井伊掃部頭直弼いいかもんのかみなおすけの一族)の領地だったことから掃部山と言われています。

今年は3月下旬に満開を迎えました。淡い桃色のソメイヨシノの満開ピークが過ぎた4月初旬、花びらが緑色の桜が咲いていました。この桜は御衣黄桜(ギョイコウザクラ)という品種で、花びらが緑色の珍しい桜です。薄い黄緑色の葉っぱと見間違えてしまいそうです。



左側の木が、花が緑色のギョイコウザクラ、その右隣りはピンク色の八重桜。(4月4日、事務局撮影)



ギョイコウザクラの花は、次第に中央部分が赤紫色になっていきますが、目立つのはやはり緑色です。

Topic②【復活！ 宇宙桜】

協議会ニュース No.92、93、103でも紹介した宇宙桜の続報です。この桜は、2000年2月にスペースシャトル「エンデバー」に搭乗した毛利宇宙飛行士と共に宇宙を旅してきたエゾヤマザクラの種から育てられたものです。毛利氏の出身地、北海道余市町で育成、2005年10月に当センターに寄贈されました。

昨年、急に元気がなくなり、夏のうちにほとんど落葉してしまいました。専門家に診てもらい、施肥を行い青少年センター職員で当番を決めて水遣りを行いました。その甲斐あってか、この春、数は少ないものの花を咲かせました。復活できたか、宇宙桜！



青少年センターの建物の南側(道路に面した側)の外階段の横に「宇宙桜」は植えられています。(3月29日、事務局撮影)





1 徳川家康の頃の横浜（江戸時代初期）

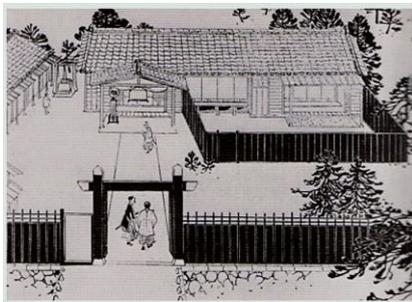
現在、青少年センターが建っている紅葉ヶ丘は、江戸時代初期までは、野生の楓(かえで)が生えている山でした。そして、紅葉ヶ丘から野毛は海に面しており、しかも海岸は断崖絶壁でした。「横浜」という地名は、横に砂浜(砂洲)が突き出た村、すなわち「横浜村」が由来となっています。横浜村は、たった80軒程度の半農半漁のさびれた寒村でした。

2 埋め立て（江戸時代中期～）

江戸時代中期から、横浜村のあたりまで埋め立てが始まりました。現在の関内、中華街、山下公園のあたりは全てこの江戸時代の埋め立てで出来た平地です。明治時代以降の埋め立てで出来た「みなとみらい地区」と同じ面積が、江戸時代に埋め立てられ、「吉田新田」と言われた広大な田園が完成しました。

3 紅葉坂を往来したお侍さん（江戸時代末）

あのペリー(米国東インド艦隊司令長官)が黒船で浦賀沖にやってきたのがきっかけとなり、1859年(安政6年)に江戸幕府は横浜港を開港しました。この時、開港に向けて積極的に動いた人物が前号で紹介した井伊直弼です。そして開港の直後、横浜港を監視できる場所として、紅葉坂を登った高台(現在、青少年センターが建っている紅葉ヶ丘)に「**神奈川奉行所**」(警察と市役所を兼ね備えたような施設)が設置されました(下の写真)。当時は、



出典:グラフィック西・目でみる西区の今昔(昭和56(1981)年西区観光協会発行)から

横浜の海を一望に見下ろすことができる眺めのいい高台でした。役人である武士たちが、ここから横浜港に浮かぶ外国船を監視していました。また、腰には刀を差し、馬に乗り、ここから港の役所まで往復していました。

4 青少年センターの設立（1962年）

神奈川奉行所跡に、昭和37年、青少年センターが建設されました。児童会館、理科教育センター、県民劇場の3つの機能を持った総合施設で、2階に**体験型科学博物館**、3階には理科実験室、4階に**プラネタリウム**、屋上に**天体望遠鏡ドーム**が設置されました。理科教育については、



オープン当時の青少年センター「青少年センター30年史」より

- ①主として**科学や天文関係の機材**等を整備して、
- ②**実験指導、展示及び操作**等を行わせ、
- ③**科学知識の習得と知識欲の充実**を図り、

科学に対する興味を喚起させるよう、科学知識普及に努めることを主眼としました。神奈川県が全国に自慢のできる科学施設としてスタートし、開館以来55年間、県民、特に子ども達に親しまれてきました。

5 青少年センター改修（2006年）

センターの建物の耐震化工事により、屋上の天体望遠鏡ドームは重すぎるため、また2階の展示場は壁・柱の少ない広いスペースで構造的に弱いと、ということで、それぞれ撤去されました。これに伴い、科学部は県内各地へ出張する事業にも力を入れるようになりました。このための**連携組織として、科学部が事務局となって本協議会が発足しました。**

6 紅葉坂から科学部移転（2018年）

55年間、神奈川県の子どもの科学体験活動の拠点であった紅葉坂(紅葉ヶ丘)から、県の政策により科学部が移転することになりました。

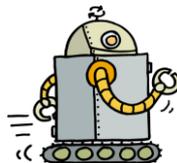
ただ今、移転候補地の下見等を行っています。今年の秋に移転予定です。詳細が決まりましたら、会員の皆様にお知らせいたします。



事務局(科学部)移転

事務局から

新年度の話題としては恒例的に「桜の開花」を取り上げることが多いのですが、今年は3月中旬に満開となり、4月にはそのピークが終わってしまいました。という中でやや時期遅れの感もありますが、今号では表面の Science Topics で桜の話題を2つ紹介しました。



移転広報の
ロゴマーク



さて、ただいま事務局では、今年度の当協議会の名簿を更新中です。異動が無かった会員さんも「平成30年度協議会会員情報記入用紙」を事務局にご提出ください。まとまりましたら送付しますので、会員間の情報交換にもご利用ください。(事務局：村上、高相、山田、宮城)